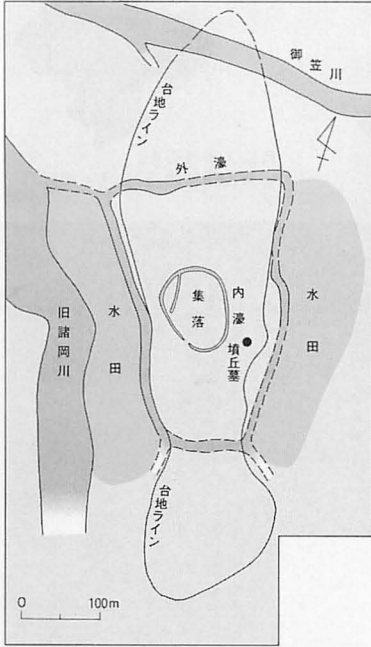


新シリーズ 福岡の遺跡と史跡～日本最古の農耕集落 板付遺跡

このコーナーでは、福岡市内の遺跡や史跡を紹介いたします。考古学的な遺跡だけでなく、歴史上の舞台となった場所を広くとりあげたいと考えています。「博物館観察学」とともに随時掲載します。

シリーズ第1回目で取り上げるのは、現在遺跡の整備が進められている国指定史蹟板付遺跡です。板付遺跡は集落(ムラ)は水田(たんぼ)が一緒に見つかった遺跡としては日本列島でもっとも古い遺跡です。



板付遺跡で最初の発掘が行われたのは戦後の混乱もさめぬ昭和26年のことです。日本考古学協会員が手弁当で発掘調査を行い、板付遺跡が登呂遺跡と並ぶ弥生時代の重要な遺跡であることがわかりました。昭和40年代以降は、土木工事で遺跡が破壊される前に発掘を行なう緊急発掘が数多く行なわれています。

板付にムラが作られたのは、縄文時代末頃の約2400年前のことです。小高い台地の上に住居や貯蔵用の施設を作り、台地の西側に水田を作りました。水田は日本列島の中でも最古級ですが、水路や矢板をうちこんだ畦をもち、完成度の高い水田です。50～100年ほど後には、ムラを外敵などから守るためムラの周囲に深い二重の濠を巡らしました。外の濠は水を湛え、農業用水としても利用しました。水田は台地の両側に作られ、面積は大幅に増えました。

遺跡からは稲だけではなく、緑豆、ソバなどの畑作物や、動物の骨も出土し、多彩な食物だったことが窺われます。ムラの周囲には墓も作られました。環濠の北側には子供の墓があり、玉類が副葬されていました。また環濠が掘られた時期より100年近く後には、環濠の南東側に土を盛った墓(墳丘墓)が築かれ、青銅製武器が本以上副葬されていました。

その後板付は春日市須玖周辺に中心があった奴国の勢力下に入り、奴国の一農村として継続していきました。

板付遺跡は今、遺跡公園として整備されています。すでに展示館(弥生館)がオープンし、全国的にも珍しい体験学習館として弥生時代の生活を実感できる展示を行っています。遺跡の整備は平成7年に完成する予定で、環濠や住居跡などを復元します。(米倉秀紀)

交通 博多駅交通センター13番のりば

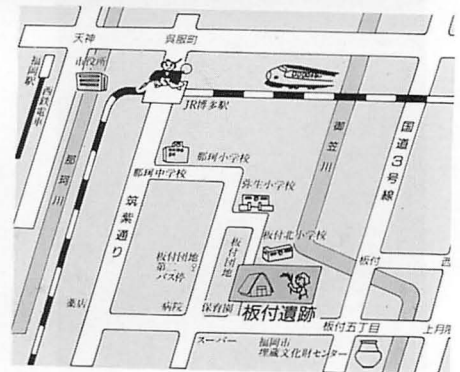
西鉄バス1、68系統 「板付団地第二」下車すぐ
弥生館 福岡市博多区板付三丁目21-1 092 (592) 4936



内環濠全景



内環濠断面



收藏品紹介8 東亜勸業博覧会関係資料

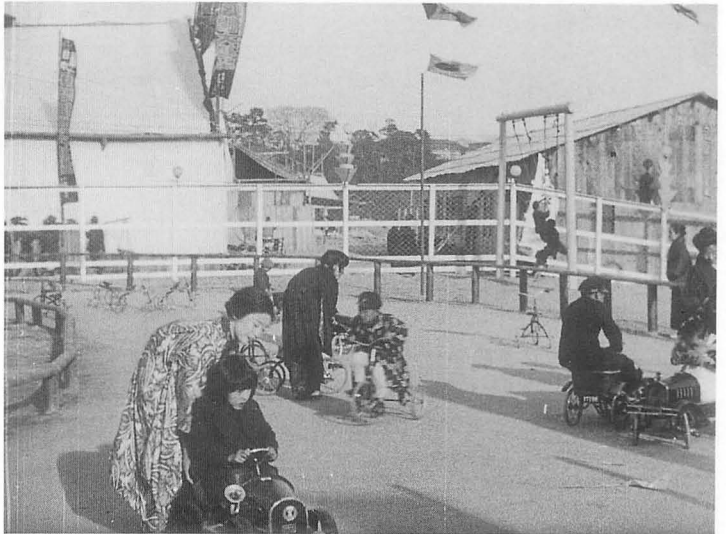
1. この博多駅には、東亜勸業博覧会用の歓迎看板が見えます。昭和初期にはまだ珍しい自転車や円タクにまじり、人力車が走っているのは興味深いものがあります。
2. 福日幼稚園は、福岡日日新聞社主催のパピリオンの一つです。子供用三輪車や四輪車はまだまだ庶民には高嶺の花でした。現在のゴーカートとして博覧会場内で人気を博しました。1・2はいずれも東亜勸業博覧会の実写映像フィルムの中の1シーンです。
3. このポスターは「母と子」とも呼ばれました。この博覧会用ポスターの第2弾として、3万枚が製作されました。個性的な優れた図案で、当時の世相をよく捉えています。



3. ポスター(東亜勸業博覧会)



1. 昭和2年の博多駅(35mm映像フィルムより)



2. 福日幼稚園 (35mm映像フィルムより)

東亜勸業博覧会について

この博覧会は昭和2(1927)年3月25日から5月23日まで60日間、福岡市主催で行われました。会場は外堀である大濠を埋め立てた埋立地、約7万坪の広さでした。その出品点数は、総数384,573点を数えました。観覧者は1,603,472人にのぼっています(当時の福岡市人口は約15万人)。この博覧会を契機として、福岡市の西南部耕地整理も進展し、同時に市内電車の城南線(渡辺通1丁目-西新町間)が開通し、薬院、六本松、鳥飼方面の発展を促しました。(鳥巢京一)